

日常異変 コロナの私(3)

内なる声で分かった教育現場のネット貧困状況

構想研の皆様、お変わりありませんか？

不要不急の外出ができなくなり、1カ月以上、経過しました。当方は仕事の関係で、一人東京住まいをしています。コロナ前なら休日の多くは、二男のラグビー観戦に精を出していました。

しかし、コロナ騒動でその観戦もできなくなり、家族も関西から東京に出てこれず、家族とはもっぱら line で連絡を取り合っています。コロナで変化があったかと言えば、個人的にはこの程度です。

しかし、学校教育は大きな変化があったことが妻との会話で実感しました。それは、何気ない夫婦の会話がきっかけでした。その時の話の一部を内なる声と共にお聞きください。

妻は兵庫県の小学校の教員です。

私：「小学校が自粛で授業がないなら、小学校の教員って今何してるの？」

妻：「子供たちの家庭訪問。明日は朝から職員の打ち合わせ、コロナ自粛で休んだ分、夏休みに授業をして遅れを取り戻すための打ち合わせだよ」（妻は何気なく言いましたが、私にとっては衝撃でした。夏休みにコロナ騒動は終わっていると思っている。本気か？）

私：「コロナは夏休みに終わっていると思っているの??？」

妻：「校長先生は夏休みに授業を取り戻すぞと張り切っているよ？」（それだけ？マジですか？）

私：「阿保ちゃうか？コロナが7月に終わるわけない。コロナの特効薬やワクチンがない限り必ず第2波もあるよ。」

妻：「・・・」（無言、ただし怒っている）

私：「第2波でまた自粛になったら、引き続き先生は子供の家庭にプリント配りするの？」

妻：「そうするしかないね！でも、だからどうしろと言うの？文句あるなら、解

「決策を言ってよね」(妻、かなり切れかかっている、いや、切れている)。
私：「なんで小学校は Zoom 使った遠隔授業しないの？ 7月、8月は遠隔授業の
予行演習したら良いのに・・・」(恐る恐る)
妻：「それ良いかも!!! 待って、何で、職員会議で話題にもならないのだろう・・・、
機材の費用かなあ。お金か？」(怒りのトーンダウン)
私：「子供の各家庭にネット環境があれば、だれでも接続できるはず。あとはパ
ソコン、タブレットが必要かな・・・」(徐々に会話が正常化)
妻：「そうだ、確かパソコン学習の一環として、9月から子供一人にタブレット
1台貸し出しするとか言っていたわ」
私：「それを2カ月ほど前倒して、タブレットを貸し出せばいいし、たいてい
の家庭はlineしているはずだから、ネット環境は整っているはず」
妻：「じゃあ、今、必要なことは子供の各家庭でネット環境が揃っているかの確
認、各家庭に1台、タブレット若しくはパソコンが揃っているかの確認、タブ
レットが用意できるか、全体の費用の確認も必要だね！」(かなり前向き)
妻：「ああそれと、Zoomを使った授業方法と、子供たちの時間割も考えないと・・・」

と、こんな風にその日は最後には前向きな意見もあり、平和的に終わりました。
ただ、一人の教員が声をあげたところで、学校全体が動くとは思えません。コロ
ナ騒動で変わった一つには、これまでと教育方法が変わらなければならない現
実を突きつけられたことと思います。

妻の勤める小学校、市において、第2波が来る前にZoom利用の実験を行い、第
2波が来たときに子供たちがスムーズに遠隔授業を始めることができる体制を
とれるでしょうか？

このまま「夏休みに授業の遅れた分を取り戻そう」と何の考えもなしに言ってい
るようであれば、今後、コロナ終結までに通常の授業を受けることができない子
供たちが多く出てくるのは明らかです。

教育現場のネット立ち遅れを心配する会員